

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2020年12月25日

利用者60名中44名返答

(1、ご意見の割合 2、ご意見内容)

事業所名：YMCAおひさま

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	プレイルームは基準を満たしています。	1. はい75%、どちらともいえない25%	児童の年齢やプログラムに合わせて、活動の場所について工夫をすることを検討していきます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	有資格者を基準より加配で配置をしています。	1. はい86%、どちらともいえない9%、わからない5%	
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	設定の活動では遊具が見えないように目隠ししたり、今日の予定や荷物等の置き場はイラスト等で示す等の視覚的配慮をしています。	1. はい86%、どちらともいえない9%、わからない5%、	児童の年齢や特性に合わせた環境づくりを心がけます。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日、職員が掃除や玩具の故障チェックなどを行い、安全に過ごすことができるようにしています。	1. はい98%、わからない2%	プレイルームはいつも整理整頓します。必要のない物、子どもたちが気になる物は目隠しや目の届かないところに収納するように心がけます。
業務改善	1 子どもと保護者のニーズや課題がしっかりと分析された上で、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画が作成されているか	毎回、クラス前後にミーティングを行い、プログラムの確認と振返りを行っています。月に1度は職員全員で会議をし、クラスについて意見を出し合っています。	1. はい96%、どちらともいえない2%、わからない2%	
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	神戸市の実地指導での意見を受け、書類の内容改善などを行いました。		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	神戸YMCA発達支援セミナー、関西地区YMCA合同研修、障害平等研修を行っています。		職員には各クラスの児童の特性に合った研修を受講できるように推奨します。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	面談内で保護者の方の思いと今までの生育歴、検査報告書、現在の様子をお聞きした上でクラス内の様子から考えられる子どものつまずき、良い面を観察し、作成しています。		
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成されているか	2～6名の小グループ活動のプログラムを行っています。その中で個別的な関わりや指導を取り入れています。また、年中・年長児童には個別指導の時間を設けています		
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	「ことば・認知」「運動」「視覚的認知と手の操作」「対人・社会性」「コミュニケーション」「生活面」「行動と情緒」「集団参加」「家族支援」「地域支援」など子どもの支援に必要な内容について記載しています。	1. はい93%、どちらともいえない5%、わからない2%	記載内容については、ケース検討会の内容を含め、今後も職員で話し合いながらより計画書になるように努めます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	目標や支援内容についてはご家族の方と相談しながら決定し、実施しています。	1. はい93%、どちらともいえない5%、わからない2%	一人ひとりの個別支援計画の内容がクラス作りに反映されるクラスのプログラム作りとなるように、職員は個別支援計画を意識するよう心がけます。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	毎月プログラム会議を全クラス設け、チーム全体で立案しています。		
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	月曜日～土曜日、開所しています。		
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	年齢、メンバーによってプログラム内容を変えています。季節的な取り組みや子ども達が興味があるものをプログラムに取り入れています。	1. はい82%、どちらともいえない9%、わからない7%、いいえ2%	保護者と情報を交換し、子どもたちが楽しみながら意欲を持って取り組めるプログラムを行えるよう努力します。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	クラス前にミーティングを行い確認しています。児童発達管理責任者が面談内で保護者からお聞きした内容を職員内で共有しています。		
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	クラス後すぐにミーティングを行い、各職員で気づいた点を共有しています。次回に必要な支援についても意見交換しています。		
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日案および全クラスで個別記録を作成しています。		
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	全ての児童に対して半年ごとに職員間でケース会議を実施し、個別支援計画の確認を行っています。また、2～3か月ごとに保護者の方と面談を通じて個別支援計画の見直しを行っています。			

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参加	児童発達支援管理責任者が相談支援事業所と相談し、様子を確認しています。		
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現在医療的ケアが必要な方は通所されていません。		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現在医療的ケアが必要な方は通所されていません。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	幼稚園、保育園、小学校、他の療育機関の方々と情報共有、情報交換しています。	セルフプランの方で支援会議が行われない場合は保護者の方を通して他機関と情報交換が行えるようにします。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	現在はすべての利用者が小学校低学年のため行っていませんが、状況に応じて提供できるようにします。		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	神戸市等が実施する福祉研修に参加しています。	職員が自ら必要な研修を受けに行けるように体制を整えます。	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	幼稚園、こども園、学童と並行利用している児童が多い。小グループで週1回60～90分程度のクラスプログラムですで行っていません。	1. はい30%、いいえ25%、どちらともいえない23%、わからない21% 2. 普段は幼稚園に通っています。降園後、おひさまに來させてもらっています。	幼稚園、こども園と並行通園している利用者が多い。これからも、神戸YMCAで行っている幼児クラス、野外活動、プール、体操、学童、児童館などを紹介し、交流の場を紹介していきます。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	年2回神戸YMCAで行う発達支援セミナーやチャリティバザー(わいわいまつり)の案内をしています。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	毎回、支援の内容についてはお伝えし、利用者負担等については入会時や掲示にて説明しています。	1. はい96%、どちらともいえない2%、わからない2%	
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	2～3か月ごとに保護者の方と面談を行っています。	1. はい84%、どちらともいえない16%	
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングは行っていません。今年度は臨床心理士による保護者自身によるストレス軽減法(マインドフルネス)の「おひさま講座(全5回)」を前期・後期に行っています。	1. はい85%、どちらともいえない9%、わからない3%、いいえ3%	今後もおひさまCAFE(保護者会)に講師を招いたり、おひさま講座やペアレントトレーニングを実施するようにしていきます。また、保護者に参加を呼びかけます。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	クラス前後の送迎の際に幼稚園や家庭での様子、体調、クラスでの様子を確認しています。	1. はい84%、どちらともいえない9%、いいえ5%、わからない2%	
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	年に3～4回の個別面談以外に必要な方はその都度子育て、発達相談を受け付けています。	1. はい82%、どちらともいえない14%、いいえ2%、わからない2%	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母の会の活動の支援は特に行っていません。年に2回保護者会(おひさまCAFE)、おひさま講座などでの意見交換の時間を通して連携がとれるように心がけています。	1. はい50%、どちらともいえない27%、いいえ11%、わからない11%	保護者会(おひさまCAFE)やおひさま講座で保護者同士が話をしたり、情報を交換や交流できる場を作ります。また、参加を呼びかけます。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	児童発達管理責任者が発達相談や普段から要望、苦情受付を担当しています。	1. はい48%、わからない43%、どちらともいえない9%	電話、メールの受付以外に玄関にご意見箱を設置しています。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	言葉が出なかったり、コミュニケーションの苦手さがある子には言葉が出やすいように視覚支援を行っています。	1. はい77%、わからない14%、どちらともいえない9%	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、掲示物や手紙・ホームページで活動内容をお伝えしています。	1. はい66%、どちらともいえない18%、わからない14%、2. その月々の活動内容などを口頭で伝えていただいています。	全員の方に周知していただくために声をしたり、プレイルーム前に掲示していきます。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人ファイルは鍵のかかっている棚に保管し、名前が記入されている書類はシュレッダーにかけています。	1. はい85%、わからない7%、どちらともいえない5%、いいえ2%	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルともに策定し、職員間では周知しています。	1. はい85%、わからない7%、どちらともいえない7%	保護者の方に周知していただく為、掲示物やお手紙等で発信していきます。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	職員だけの火災、地震、防犯の避難訓練と、クラス内でも子ども達と一緒にしています。	1. はい91%、わからない5%、いいえ2%、どちらともいえない2%	今後も訓練を実施し、保護者の方も可能な限り一緒に訓練に参加していただきます。
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	年に1回、ミーティング内で職員研修します。全職員が障害平等研修(DET)に参加しています。		
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	プレイルームは2階にあるため、安全の為に鍵をかけています。		プレイルームの施錠については入会時に説明するように心がけます。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アレルギー物質、食品について入所時に保護者の方に記入していただいています。特別なプログラム以外での飲食は禁止としています。プログラム中の食品使用の際には毎回保護者に確認をしています。		アレルギー対応が必要なお子さんの保護者には、毎回使用する食品について確認を行います。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	月に一度職員会議内でヒヤリハット事例を共有し、今後の対応を記録しています。		

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
事業所評価	1	子どもは通所を楽しみにしているか	保護者と情報交換し、子どもたちの園や学校での様子を聞きながら、状況に合わせて臨機応変にプログラムを組むようにしています。	1. はい84%、どちらともいえない14%、わからない2%	子どもたちの様子を保護者と協力しながら、特性や一人ひとりに応じた関わりを心がけます。
	2	事業所の支援に満足しているか	退会後にフォローアップでアンケート調査を行い、おひさまの活動にフィードバックしている。	1. はい93%、どちらともいえない5%、わからない2%	子どもたち、保護者が安心しておひさまを利用できるように、発達相談やクラス作りを丁寧におこなっていきます。